

病 理 部

1 構 成 員

	平成16年3月31日現在
教授	0人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	2人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	1人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	3人
その他（技術補佐員等）	5人
合 計	12人

2 教官の異動状況

三浦 克敏（助教授，副部長）（H5.8.1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1編（0編）
そのインパクトファクターの合計	6.75
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	8編（2編）
そのインパクトファクターの合計	7.247

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Arai Y, Ishiwata M, Baba S, Kawasaki H, Kosugi I, Li RY, Tsuchida T, Miura K, Tsutsui Y :
Neuron-specific activation of murine cytomegalovirus early gene e1 promoter in transgenic mice. Am J Pathol, 163 (2) : 643-52, 2003

インパクトファクターの小計 [6.75]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 土屋一洋，青木茂樹，平戸純子，森田明夫（編著）三浦克敏，磯田治夫ほか64名（著）：手術と病理の理解のための頭部画像診断，秀潤社，2003

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Miura K, Kum Y, Han G, Tsutsui Y : Radiation-induced laryngeal angiosarcoma after cervical tuberculosis and squamous cell carcinoma : case report and review of the literature. Pathol Int Oct; 53 (10) : 710-5, 2003
2. Han G, Miura K, Takayama T, Tsutsui Y. : Primary prostatic endodermal sinus tumor (yolk sac tumor) combined with a small focal seminoma. Am J Surg Pathol, Apr; 27 (4) : 554-9,

2003.

インパクトファクターの小計 [5.057]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Kobayashi T, Uenoyama S, Miura K, Takehara Y. : Idiopathic unilateral adrenal hematoma : report of a case. Surg Today, 34 (3) : 279-82, 2004
2. Toyoda H, Yamaguchi K, Miura K, Fukuda H, Hashimoto K. : Salivary duct carcinoma in the submandibular region. Int J Oral Maxillofac Surg, Aug; 32 (4) : 427-9, 2003
3. 志賀克元, 佐野倫生, 西村行秀, 神谷光太郎, 長野昭, 三浦克敏 : 坐骨に原発したと考えられる未分化間葉系腫瘍の一例。東海骨軟部腫瘍 14 : 53, 2002
4. 志賀克元, 佐野倫生, 美崎朋子, 松原隆将, 長野昭, 土田孝, 三浦克敏 : 右足背部骨腫瘍の一例。東海骨軟部腫瘍 15 : 27, 2003
5. Shinmura Y, Miura K, Yajima S, Tsutsui Y. : Sacrococcygeal chordoma in infancy showing an aggressive clinical course : an autopsy case report. Pathol Int Jul;53(7) : 473-7, 2003
6. Kobayashi T, Uenoyama S, Miura K, Takehara Y. : Huge endocrine tumor of the pancreas. J Hepathobiliary Pancreat Surg 11 : 73-76, 2004

インパクトファクターの小計 [2.190]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	1件 (60万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	4件 (514万円)

(4) 財団助成金

韓 桂萍に対する在留中国人研究者研究助成 60万円

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	1件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	2件
(5) 学会役員等回数	0件	3件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

三浦克敏 第201回静岡県病理医会 2003年7月19日 浜松医科大学

三浦克敏 第204回静岡県病理医会 2004年3月27日 浜松医科大学

2) 学会における特別講演・招待講演

三浦克敏 乳腺の画像部会研究会 乳腺の病理 2003年11月8日 袋井市民病院

4) 座長をした学会名

三浦克敏 第7回日本病理学会中部支部スライドセミナー 2004年3月6日, 金沢

三浦克敏 第204回静岡県病理医会 2004年3月27日 浜松医科大学

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

三浦克敏 日本病理学会 評議員

三浦克敏 日本病理学会中部支部 選挙管理委員

三浦克敏 第21回病理医専門医試験委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	1件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

放射線誘発喉頭血管肉腫について，韓国Kyungpook National University Hospital, 2002年5月－2003年5月，Dr. Kum Yoon Seupが1ヶ月浜松医大に滞在し，論文を作成し，投稿した。その後，メールをやり取りし，修正の後Pathology International誌に受理された。論文は以下の内

容である。

Miura K, Kum Y, Han G, Tsutsui Y : Radiation-induced laryngeal angiosarcoma after cervical tuberculosis and squamous cell carcinoma : case report and review of the literature. Pathol Int Oct; 53(10): 710-5, 2003

(2) 国内共同研究

アミロイドの病理診断につき、コンサルトを受け付けている。藤田保健衛生大学、トヨタ記念病院、聖隷浜松病院、岩手医科大学などと共同研究をおこなっている。

(3) 学内共同研究

耳鼻科と頭頸部腫瘍の病理について共同研究をおこなっている。泌尿器科とは移植の病理について特にBKウイルスの病理について共同研究をおこなっている。第一内科とはPMLの症例の診断について共同研究をおこなった。第一外科とは肺がんの高温治療（Hyperthermia treatment）について治療前後における癌の変性を形態計測で比較する研究をおこなっている。乳癌では放射線科と外科との合同カンファレンスを毎月1回おこなっている。脳外科とは東海脳腫瘍病理検討会に共同で参加、発表をおこなっている。整形外科とは東海骨軟部研究会に共同で参加、発表をおこなっている。放射線科とは頭部画像診断について共著の本をまとめた。

10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	1件

1. 浜松ホトニクスとのテレパソロジーの実用化に関する研究

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 韓国Kyungpook国立大学病院の琴先生との共同研究で喉頭血管肉腫の症例をPathology International誌に発表した。
2. 中国からの留学生である韓桂萍が前立腺に発生した卵黄嚢腫瘍の症例をAm J Surg Patholに発表した。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 臨床の各科との共同研究によって珍しい希少症例や診断困難な症例について研究をおこなっている。

2. アミロイドの症例については全国レベルでコンサルト症例が集まっており、100例を超えるまとまった資料と成り得る状況である。

3. BKウイルス、JCウイルスのポリオーマウイルスについて透析例やPML症例が集まっており、症例研究が継続できる状況で、泌尿器、臨床検査、第一内科との共同研究を継続中である。

15 新聞、雑誌等による報道